2007年
活動報告

安全運転普及活動の継続と交通環境に対応した活動の拡大

Hondaは、「人間尊重」という基本理念のもと、「より豊かなモビリティ社会の実現への貢献」という目標を掲げて、安全運転普及活動を展開している。2007年、Hondaは以下の3つの側面で活動の充実と進化に取り組んだ。

「手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」活動の強化

●ホンダ販売会社の活動

ホンダの四輪、二輪、汎用販売拠点では、お客様に手渡しで安全をお伝えするため、販売スタッフやサービススタッフが安全に関するホンダの社内資格を取得し、店頭で直接お客様に安全の知識や乗り方をお伝えしたり、実際にクルマに乗って安全を学んでいただく安全運転講習会を開催している。

四輪販売会社のレインボーディーラー※では、お客様の苦手克服や滑りやすい路面でのブレーキ体験などができる安全講習会を今年は約3000回開催し、1万人のお客様が参加した。

※レインボーディーラー＝ホンダの四輪販売会社でセーフティコーディネーター資格の取得、チーフセーフティコーディネーター資格の取得、安全運転講習会の開催という3つの必要条件を満たした販売会社が拠点ごとに認定されるもの。セーフティコーディネーターとは、お客様に店頭で安全アドバイスのできるホンダの社内資格を持ったスタッフで、チーフセーフティコーディネーターは、安全講習会の企画・立案・開催の実技指導などができる、セーフティコーディネーターのリーダー的存在。

四輪販売会社のレインボーディーラー店では、「安全ミニ講習会」や「ドライビングスクール」などを開催し、お客様へ安全アドバイスを行った

二輪販売店が主催した、お客様を対象とした「ライディングスクール」のもよう

個人の運転者教育だけではなく、地域の子どもや高齢者などに対象を広げている。

また、交通教育センターでは、安全運転普及活動を担う指導者の養成を行っている。ここで学んだ方々が、地域や仕事の現場で交通安全の輪を広げている。

さらに企業団体の交通安全責任者の交流と研鑽を図る「トラフィック・セーフティ・フォーラム」や、運転免許取得者教育をも担う教習所指導員が集い指導力を競う「第7回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」の開催を通し、指導員の自己研鑽への動機づけや全国的なネットワークづくりを行っている。効果的な指導法の共有や課題解決のための意見交換が行われ、指導者のレベルアップに貢献している。

交通教育センターでは、企業の安全運転教育を支援する、参加体験型の実践的な安全運転研修が行われた

「トラフィック・セーフティ・フォーラム」では、専門家の研究、企業の活動好事例の発表などが行われ、密度の高い情報交換の場となった

●交通教育センターの活動

全国8ヵ所にあるホンダの交通教育センター（もてぎ、和光、埼玉、浜松、浜名湖、鈴鹿、福岡、熊本）は、「参加体験型の実践教育」を広げる核となっている。年間の利用者は7万人を超え、企業、

三重県鈴鹿市では、小学校の総合的な学習の時間や幼稚園・保育園で交通安全教育プログラム「あやとりぃ」シリーズが活用されている

●子どもの交通安全に向けた活動

地域と協力して子どもの交通安全教育に取り組むという理想的な展開として、三重県鈴鹿市と開発した交通安全教育プログラムは、小学校3、4年生向けの「あやとりぃ」、4～5歳児対象「あやとりぃ　ひよこ編」、小学生向け「あやとりぃ　自転車教室」と、子ども向けに3つの内容があり、今年は約1万8000人がこのプログラムを受講した。

また、「あやとりぃ」活動の広がりとして幼稚園や保育園の先生をめざす大学生が、授業の一環として指導法を学んだり、社会貢献活動として、社員が地域に広める取組みを行う企業もでてきている。

海外でも、タイやシンガポールで、地域、行政とホンダが一緒になって同様のプログラムを展開している。

●高齢者の交通安全に向けた活動

今年、7つの交通教育センターで高齢ドライバー向けの「ホンダ健康ドライブスクール」がスタートした。運転経験が豊富で、自信もある高齢ドライバーに、自分の運転の問題点を自ら見つけ、それを補う方法を考え、運転行動を改善していただくために、気づきを促す教育に重点を置いている。

また、高齢者を対象にした歩行時や自転車利用時の交通安全教育プログラム「あやとりぃ　長寿編」も、市、警察、地域の方とホンダが協力して指導を行い、地域活動として取り組んでいる。

今年から、高齢ドライバー向けの「Honda健康ドライブスクール」がスタートした

●新しい教育機器、ツールの開発

「夜間事故対応プログラム」は、ハイビジョン映像で薄暮時・夜間の交通状況を再現し、夜間の危険と対応法を学ぶもの。歩行者、自転車利用者の交通安全教育にも活用を開始した。

「夜間事故対応プログラム」では、夜間事故の原因を臨場感のあるフルハイビジョン大型スクリーンにより体感できる

「自転車シミュレーター」は、自転車のマナーや危険予測を楽しく学ぶことができる

ライディングシミュレーターの技術を応用した「自転車シミュレーター」の研究開発も行った。子どもや高齢者の危険予測トレーニングの活用に向け、今後も教育手法を研究し、普及をめざす。

また、自転車利用者とドライバーの交通事故防止に役立てていただくために、安全小冊子「トラフィック・サイクル～自転車は街を走る仲間～」を作成し、全国の四輪販売拠点からお客様や地域の方々に配布した。

交通安全を取り巻く環境変化への対応

今年8月、鈴鹿サーキット交通教育センターは、交通安全を取り巻く環境の変化やお客様のさまざまなニーズに対応できる交通安全教育の環境を整え、新しく生まれ変わった。

合わせて、新しい教育プログラムを導入。運転の録画映像やIT機器を使い運転記録データをもとに、自らの運転の問題点への気づきを促し、運転行動の改善に結びつける「自己観察法」、運転行動の問題点について、参加者とインストラクターがディスカッションしながら解決法を見出していく「コーチング手法」という2つの手法を取り入れたのが特徴。

「参加体験型の実践教育」に、新しい手法が加わることで、さらに質の高い安全運転教育を社会に提供できると考えている。

今年8月、鈴鹿サーキット交通教育センターは先進技術を取り入れた安全運転教育が提供できるように新たに生まれ変わった